

令和 2 年 6 月 18 日現在

機関番号：32689

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2019

課題番号：16K03135

研究課題名(和文)19世紀メキシコの先住民農民反乱の原因究明

研究課題名(英文)Causes of indigenous peasants' uprising in the 19th century mexico

研究代表者

山崎 眞次 (Yamasaki, Shinji)

早稲田大学・地域・地域間研究機構・その他(招聘研究員)

研究者番号：70200657

交付決定額(研究期間全体):(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文):19世紀メキシコで頻発した先住民農民反乱発生の原因として、先行研究は地主による農民の土地強奪や両者間のエスニックな闘争等を挙げている。だが筆者は私的アクターである地主と共同的アクターである農民間の土地紛争に公的アクターである政府が積極的に調停機能を発揮しなかったばかりか、むしろ地主と結託したために、孤立化した農民が反乱という道を選択せざるを得なかったと考察した。2019年から2020年までの長期入院とリハビリのため研究を中断せざるを得なかったが、仮説の要点は証明されたと、考える。

研究成果の学術的意義や社会的意義

1994年にメキシコ南部で勃発したサパティスタ民族解放軍の武装蜂起は新自由主義的理論に基づくNAFTAに対する厳しい異議申立てであったがゆえに、世界中のマイノリティや先住民研究家に強いインパクトを与え、現代の先住民の鬱積した不平・不満の解決には、彼らの祖先が被った過去の苦難の歴史を調査・分析することが再認識された。本研究は先住民農民反乱の原因を究明したもので先行研究が見落としていた公的・私的・共同体的3アクターの関係性に注目し、主にメキシコの公文書館に所蔵される19世紀の記録を収集・分析することによって仮説証明に取り組んだ。現代の先住民の窮状を広く知らしめる学術的・社会的意義があったと言える。

研究成果の概要(英文):Preceding study mentions robbery of peasants' lands by landowners, ethnic conflicts between both, etc as causes of indigenous peasants' uprising in the 19th century Mexico. But the writer considers that because governments (public actor) did not only positively show their arbitrary ability about land conflicts but also collude with landowners (private actor), isolated peasants had to take uprisings. Although the writer was unable to interrupt the research between 2019 and 2020 because of a long hospitalization and rehabilitation, the main point of his hypothesis has been proven.

研究分野：ラテンアメリカ地域研究

キーワード：先住民 土地紛争 農民反乱 メキシコ 権力関係

1. 研究開始当初の背景

従来の欧米の農民反乱研究は資本主義経済の農民共同体への浸食による農民共同体の崩壊という観点から、また権威主義体制下で搾取された農民という観点から分析されてきたが (Eric Hobsbawm, Eric Wolf, Barrington Moore) 人類学を除き先住民農民を研究対象にした論文は少なかった。その理由として欧米では近代化の伸長により先住民農民の生活空間が狭められ、先住民人口の同化・減少によって先住民が反乱を起こすだけの活力を喪失したことが考えられる。だが、ラテンアメリカでは 20 世紀末から先住民農民反乱の勃発や先住民権利回復運動が相次いで起こっている。これらの反乱や運動はインディヘニスム(先住民権利回復運動)というラテンアメリカで生まれたディシプリンに触発され、現代ラテンアメリカの約 2000 万人の先住民が自分たちの民族性に覚醒し、自治権、経済権、文化権を要求し始めたことに起因する。特に 1994 年、メキシコのチアパス州において勃発したサパティスタ民族解放軍の武装蜂起は、武力でしか自らの諸権利を回復できないと自覚した先住民の連邦・州政府への反乱であり、それが新自由主義的理論に基づく北米自由貿易協定 (NAFTA) に対する厳しい異議申立てであったために、世界の研究者に強烈なインパクトを与え、その後、多数の論文が公表された。

現代の先住民反乱・運動に関する論文が発表されるのと並行して、ラテンアメリカで発生した過去の先住民反乱・運動に関する刊行物も数多く執筆されている。現代の先住民農民反乱の原因が過去の植民地支配や 19 世紀以降の近代国家生成過程で生じたと考察されたからである。現代の先住民の鬱積した不平・不満の解決には、彼らの祖先が被った過去の苦難の歴史を調査・分析することが再認識されたのである。

2. 研究の目的

筆者の研究対象であるメキシコ先住民農民反乱に関する書籍・論文では、Friedrich Katz を中心とする研究者たちが、19 世紀のメキシコ各地の先住民農民反乱を網羅的に分析した研究書 (Riot, Rebellion and Revolution. Rural Social Conflict in Mexico, 1988) を刊行し、それまで各地域の個別的な研究に終始していた先住民農民反乱研究にメキシコ全土を視野に入れた総合的研究の必要性和各反乱の連関性を示した。この研究書の刊行後、多数の論文が必ず同書を引用していることを勘案すれば、メキシコ先住民農民反乱に関する必読書とも言える書籍を編集した Katz の功績は大きい。

本研究は、その Katz の反乱理論に異を唱えるものである。Katz の研究グループは先住民農民反乱の発生原因として 4 点を挙げている。大土地所有者 (アセンダド) が先住民農民から土地を強奪した。18 世紀後半から先住民農民人口が増加したために土地が不足した。

19 世紀半ばに公布された「永代所有財産解体法」(レルド法)によって、先住民の農村共同体が解体され、農民が土地を失った。富裕な白人アセンダドと貧しい先住民農民間に土地をめぐるエスニックな闘争が起こった。これらの 4 つの反乱発生原因は実証研究に依拠した信頼できる理論ではあるが、論点を私的アクターであるアセンダドと共同体的アクターである先住民農民間の土地紛争に特化している。筆者が国立公文書館に保管されている

植民地時代と独立以降の紛争記録を比較調査した結果、植民地時代に行政府が土地紛争を調停し、和解に至った事例をいくつも発見した。その一方で独立以降は行政府の調停が失敗した事例も数多く発見した。そこで筆者は2つのアクターに政府という公的アクターを加えて、3アクター間の関係の変化が反乱を生み出したという独自の理論を展開する。土地の争奪戦やエスニックな人種闘争という経済的・社会的な要因の他に、公的アクターである政府の調停機能の低下・放棄を反乱原因としてあげる。公的アクターが、私的アクターであるアセンダドと共同体的アクターである先住民農民間の土地紛争を解決するための調停を怠った、あるいは私的アクターと結託したために、先住民農民が反乱という道を選択せざるを得なかった、と考察する。

3. 研究の方法

2014年までに4地域（東南部のマヤ族の反乱、メキシコ市近郊のロペスの反乱、西部のロサダの反乱、北西部のヤキ族の反乱）の調査・分析を実施し、2015年、単行本「メキシコ先住民の反乱 敗れ去りし者たちの記録」を刊行した。本研究では、メキシコ中央部のケレタロ・グアナフアト両州を中心に隣接他州まで拡大したシエラゴルダ（ホナセス族）の反乱、メキシコ南西部オアハカ州で勃発したサポテカ族の反乱、メキシコ北東部のパパントラで発生したトトナカ族の反乱の調査・分析を行い、メキシコ全土の先住民農民反乱を網羅する計画を立てた。調査方法は、まず既刊の論文を収集して、先行研究を精査する。そして現地の国立公文書館、国立図書館、国立定期刊行物資料館に所蔵されている土地紛争に関する記録を調べ、アセンダドと農民の主張に対して、行政府がどのように対応し、調停・介入したかを分析する。この方法によって3反乱における3アクター間の関係の変化を明示して、仮説を証明する。だが、2度の肺炎罹患によって、十分な現地調査ができず、とに関しては、体調が回復してから、再調査を行い、論文にまとめるつもりである。

4. 研究成果

論文

著者名	論文標題				
山崎眞次	シエラゴルダの農民反乱（1847 - 1849）				
雑誌名	査読の有無	巻	発行年	最初と最後の頁	国際共著
早稲田教養諸学研究	無	142	2017	1 - 20	-

学会発表

発表者名	発表標題	
山崎眞次	先住民農民反乱のメカニズム	
学会等	発行年月日	発表場所
ラテンアメリカ学会東日本部会	2018年1月6日	専修大学神田キャンパス

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 山崎眞次	4. 巻 142
2. 論文標題 シエラゴルダの農民反乱（1847 - 1849）	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 早稲田大学教養諸学研究	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 山崎眞次
2. 発表標題 農民反乱発生のメカニズム
3. 学会等名 ラテンアメリカ学会東部地区研究発表会
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

yamasin.boy.jp

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----